

令和7年度 龍ヶ崎市消防団の実態に関するアンケート調査報告書

【概要版】

1. 調査の目的と概要

消防団員の減少や負担増といった課題に対し、団員の実態と意向を把握し、持続可能な消防団活動を構築するために実施しました。

対象	全団員（約410名）
期間	令和7年8月～令和8年2月（計2回実施）

2. 数字で見る「消防団の現状」

団員の属性

年齢：40代・50代が中心（約7割）

職業：会社員が最多（約45%）、次いで自営業（約22%）

出勤：平日昼間は**「出勤できない」が過半数（52.4%）**

活動の負担感

最も負担な業務：「消防操法大会」が圧倒的多数（70.1%）

大会への意見：「隔年開催なら、ない年は実践的な訓練をしたい」「希望制にしてほしい」との声が多数。

施設・装備

機庫：老朽化が進行中。建て替え・修繕は**「市による整備」**を望む声が約75%。

課題：修繕等にあたり、**「地元の協力が得られない・わからない」**との回答が8割を超え、地域負担の限界が浮き彫りに。

装備：迅速な消火活動と団員の安全確保に直結する、資機材の計画的な更新・充実を求める声が多数。

応援の店制度

認知度：チラシ配布により向上したが、利用率は伸び悩み。

要望：スーパー、コンビニ、飲食店などの**「チェーン店」**での利用希望が多い。

3. 現場からの切実な要望（抜粋）

 「操法大会よりも、消火活動や水出しなど、現場で役立つ訓練を充実させてほしい。」

 「仕事や家庭の事情で休んでも、責められない雰囲気づくりが必要。」

 「仕事との両立は限界に近い。団員確保のためにも、時代に合わせた抜本的な改革が必要だ。」